

「ワクチン接種」の これまでとこれから

稲垣 茂行



問 これまで接種した対象者、人数、接種率は。

答 医療従事者2,058人のうち1,957人に2回目の接種を終え、接種率は約95%。高齢者施設入所者及び従事者は、既に施設内で実施。6月4日時点で571人に予診票を発行。65歳以上の高齢者約17,400人に対し、6月10日時点で4,031人が1回目の接種を終え、接種率は約23%。2回目の接種は6月11日から。

問 今後の接種予定は。

答 高齢者の優先接種の後、基礎疾患を有する方や高齢者・障がい者施設の利用者や従事者を対象とし、その後、一般の方を予定。高齢者の接種が概ね終了するのは、7月末を目途。接種を希望する全ての対象者の完了は令和4年2月末を予定。

問 「余りワクチン」有効活用の取組みは。

答 キャンセルが発生した場合、キャンセル待ち登録や接種会場従事者、高齢・障がい福祉サービス従事者等への接種によって対応する。

問 ワクチン接種体制の拡充は。

答 医師会と協議し、集団接種会場での時間当たり件数拡大や接種レーンの増設及び市内医療機関での「個別接種」の拡充等を検討していきたい。

吉川橋～交番間の歩道拡幅 河川氾濫表示と救援体制は

赤出川 義夫



問 吉川橋から吉川交番交差点間の北側歩道を広げてほしい。

答 朝の通学通勤時間の状況を市も確認、越谷吉川線の整備主体の埼玉県に安全対策を要望している。埼玉県より道路利用者の安全を確保するための対策を検討していると伺っている。

問 河川氾濫時の想定浸水深標識の表示を分かりやすく。

答 市内の電柱120カ所に設置。令和2年10月設置の40カ所は河川が氾濫した場合にその地点で想定される最大の浸水深を中川・江戸川・利根川の3つのいずれかを表示。残り80カ所は、設置場所に近い河川の氾濫を想定した浸水深を表示。先行で設置した40カ所は分かりやすい表示に見直しを検討しているところである。

問 災害時要支援者の避難、救援体制は。

答 市では、要支援者の避難支援を自治会、民生委員・児童委員等と要支援者の名簿を共有するとともに、令和3年3月に避難支援等関係者向けの手引きを策定し、地域の減災力と連携の向上に取り組んでいく。

道路の安全対策を

雪田 きよみ



問 越谷吉川線、吉川交番前交差点から三郷吉川線の交差点までの区間は、市道から県道に移管予定であり、県から整備が求められている。歩道について、桜の木の根上がりや桜の葉による照明の暗さ等、近隣住民から要望が出されている。具体的整備内容は。

答 樹木の根上がりの修繕、破損している側溝蓋の交換、側溝のグレーチングの隙間の改善、桜の木の剪定を今年度実施する。住民要望と同じ内容。根上がりは、掘って平らにする。

問 横浜市では、特殊な土壌を舗装の下に設けることにより健全な樹木の育成、根上がりの再発防止対策を行っている。当市でもこうした工法で、根上がり防止に努めていただきたい。

答 研究していきたい。

問 川野橋の交差点は、さくら通りの北側のカーブにより見通しが悪く、歩行者は恐る恐る横断する状況。手押し式信号設置等の対策が必要では。

答 吉川警察署に相談したが、歩行者が安全に横断するために必要な滞留場所がないことから、設置はできないとの見解だった。吉川警察署と連携を図り、安全対策について検討していく。

安全安心のまちづくりについて

松崎 誠



問 東埼玉テクノポリスの拡張について

東埼玉テクノポリスの拡張は当初、面積20haを市施工で開発されると聞いておりました。しかし、県との農林調整が大きなハードルになっていて市施工では難しく、今後はテクノポリスの拡張部分を民間企業独自で大規模開発が具体的に進められるという話を聞いております。その点について伺います。

答 拡張部分については、市施工では行いませんが、民間企業が開発を行うようであれば情報提供などをして、支援をしてみたいです。

問 江戸川堤防治いの防犯灯設置について

江戸川堤防強化対策事業において、野田橋から玉葉橋までの区間約4kmのうち、約半分の堤防治いの県道・歩道・用水路・用水管理通路の付け替え工事が整備されてきました。一部完成した堤防治いでは、整備前に比べても夜間は暗く、防犯灯がないところが多々見受けられます。今後の防犯灯の設置は。

答 用水管理通路は、一般の車両はじめ、人や自転車等の通行は想定されていないことから、防犯灯の設置は考えていません。